

平成 29 年度県民意識調査結果概要

1 調査の目的及び集計結果の概要

(1) 調査の目的

- 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の平成 29 年度の実績の把握
- 運動を進めるうえでの課題の抽出や、その解決方策の検討

(ア) 調査対象者：県内在住の満 18 歳以上の男女 5,000 人
 (イ) 調査期間：平成 30 年 2 月 15 日(木)～2 月 28 日(水)
 (ウ) 有効回収数：2,660 件(回答率:53.2%)

(2) 集計結果の概要

行動計画に掲げる 成果指標項目	調査結果					H29(目標)	H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	H30(2月)		
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	60.5%	57.2%	68.0%	90.0%以上
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	36.8%	39.4%	52.9%	60.0%
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	67.6%	67.4%	—	—
上記を用意し、かつ3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	—	—	—	46.7%	50.5%	52.6%	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	—	—	—	43.9%	56.6%	47.5%	70.0%

行動計画に掲げる 成果指標項目	H26	H27(10月)	H28(9月)	H29(2月)	H30(3月)	H29(目標)	H32(目標)
県、市町の防災情報メールを登録している人の割合	8.4%	10.4%	11.3%	11.3%	22.8% (※)	24.8%	40.0%

※ ヤフーと協議し、H30.3.27 から、「ヤフー・防災速報」(スマートフォンアプリ,メール)からも県防災情報メールと同様の情報がプッシュ配信されることとなったことから、この度の数値は、防災情報メールの登録者数に「ヤフー・防災速報」登録者数を加えて算出している。

2 集計結果の分析等

この度の調査の集計結果について、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の成果指標とする行動をとっている人に見られる傾向などから、その数値を押し上げている主な要因、逆に伸びていない要因や課題などを探るため、平成28年8月、及び平成29年2月の調査と同様に広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の委員でもある2名の有識者により、行動心理学並びに防災の観点からの分析等を行っていただいた。

(有識者) 広島大学大学院総合科学研究科 教授 坂田 桐子 氏 (行動心理学)
山口大学大学院創成科学研究科 准教授 瀧本 浩一 氏 (防災)

3 行動計画に掲げる成果指標ごとの分析概要

(1) 【行動目標】身の周りの災害危険箇所などを「知る」

行動計画に掲げる 成果指標項目	調査結果					H29(目標)	H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	H30(2月)		
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	60.5%	57.2%	68.0%	90.0% 以上

《災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合の内訳》(単位：%)

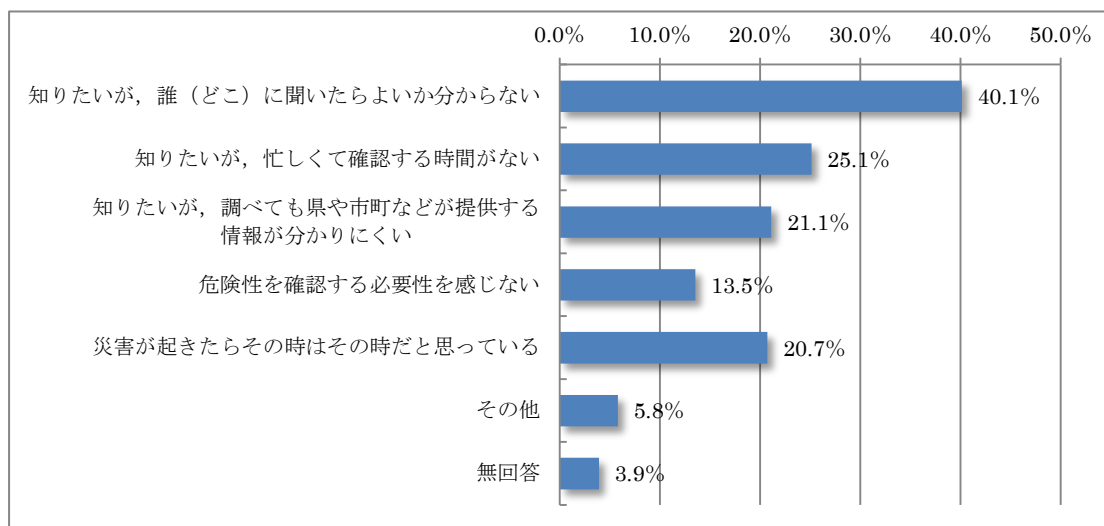
		全体	確認している	確認していない	無回答
全体		100.0	57.2	27.2	15.6
年代別	20歳未満	100.0	46.0	42.3	11.7
	20代	100.0	40.1	50.5	9.4
	30代	100.0	51.5	39.1	9.4
	40代	100.0	61.8	32.8	5.4
	50代	100.0	60.4	30.4	9.2
	60代	100.0	62.7	23.3	14.0
	70代	100.0	61.2	17.8	21.0
	80歳以上	100.0	46.6	21.4	32.0
性別	男性	100.0	58.1	26.6	15.3
	女性	100.0	56.4	27.7	15.9
生活形態別	企業・団体勤務	100.0	57.8	32.4	9.8
	自営業	100.0	61.0	23.2	15.8
	農林漁業	100.0	58.9	14.3	26.8
	家事や育児で在宅	100.0	63.4	25.2	11.4
	学生	100.0	42.2	49.1	8.7
	定年退職などで在宅	100.0	57.5	21.8	20.7
	その他	100.0	48.4	28.1	23.5

- 確認した人の割合は、「学生（42.2%）」を除くと、どの生活形態（※1）においても、ほぼ平均値となっている。
- 一方で、「住んでいる場所にどんな災害の危険性があるか知らない」人が、2割弱「16.9%（16.8%）」（※2）となっている。
- その理由は、「知りたいが、誰（どこ）に聞いたらよいか分からない」が最も多く、次いで、「知りたいが、忙しくて確認する時間がない」となっており、前者と答えた割合が高いのは、「家事や育児で在宅」及び「定年退職などで在宅」、後者と答えた割合が高いのは、「企業・団体勤務者」、「自営業」となっている。
- また、避難場所・避難経路を確認していない人について、生活形態別では、「企業・団体勤務者」が「37.2%」と最も多く、次いで「定年退職などで在宅」の「23.3%」となっている。

なお、避難場所・避難経路を確認していない人のうち、約8割「79.6%」が「避難場所等を確認しておけば、災害の時、困らなくてすむ」と回答している一方で、「避難場所等を確認するのは面倒」と回答している人は、約3割「25.2%」となっている。

※1 生活形態の分類 ～ 「企業・団体勤務」、「自営業」、「農林漁業」、「家事や育児で在宅」、「学生」、「定年退職などで在宅」

※2 「H30.2 調査数値（H29.2 調査数値）」 以降同様



災害の危険性を知らない理由（問9）

ア 有識者による分析や示唆など

- 避難場所・避難経路を確認している人など防災行動の実行度の高い層には、身近な他者に対して、避難場所・避難経路の確認の呼び掛けに携わってくれるよう働きかけることが必要である。
- 災害リスクの認知度が低い層には、引き続き、各種メディアを通じた、災害リスクの発信が必要である。
- 企業・団体勤務者にあっては、職場における防災教室・訓練の開催などを通じて、避難場所・避難経路の確認を促すことが必要である。
- 確認していない人の中には、必ずしも避難しなくても良いと考えている人がいることや、実際に、避難の必要のない地域もあるなどの詳細な実態を調べてみる必要があるのではないかな。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 子育てサークルや高齢者サロン等における防災教室の、担い手育成や実践支援などを通じ、県内の地域コミュニティにおける避難場所・避難経路の確認の呼び掛けを促す。
- 引き続き、テレビ・ラジオ等の媒体を活用して、災害リスク等の発信を行うとともに、集客力のある既存のイベントに「みんなで減災」推進大使を派遣して行う防災教室等において、身の周りの避難場所・避難経路の確認を促す。
- 引き続き、県内企業を訪問して経営者層に対し、従業員へ避難場所・避難経路の確認をしてもらうよう、働きかけを行う。
- 平成31年2月に実施予定の、防災・減災に関する県民意識調査において、これまでの取組の効果に合わせ、地域の詳細な実態の把握に努める。

(2)【行動目標】 災害発生の危険性をいち早く「察知」する

行動計画に掲げる 成果指標項目	H26	H27(10月)	H28(9月)	H29(2月)	H30(3月)	H29(目標)	H32(目標)
県、市町の防災 情報メールを登録 している人の割合	8.4%	10.4%	11.3%	11.3%	22.8% (※)	24.8%	40.0%

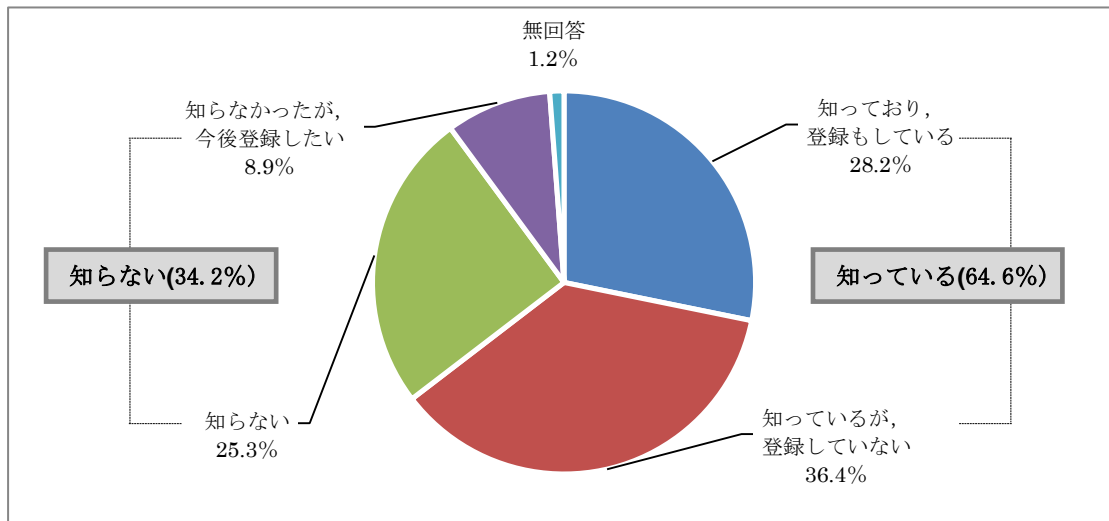
※ ヤフーと協議し、H30.3.27から、「ヤフー・防災速報」(スマートフォンアプリ,メール)からも県防災情報メールと同様の情報がプッシュ配信されることとなったことから、この度の数値は、防災情報メールの登録者数に「ヤフー・防災速報」登録者数を加えて算出している。

《「防災情報メール」の認知度》

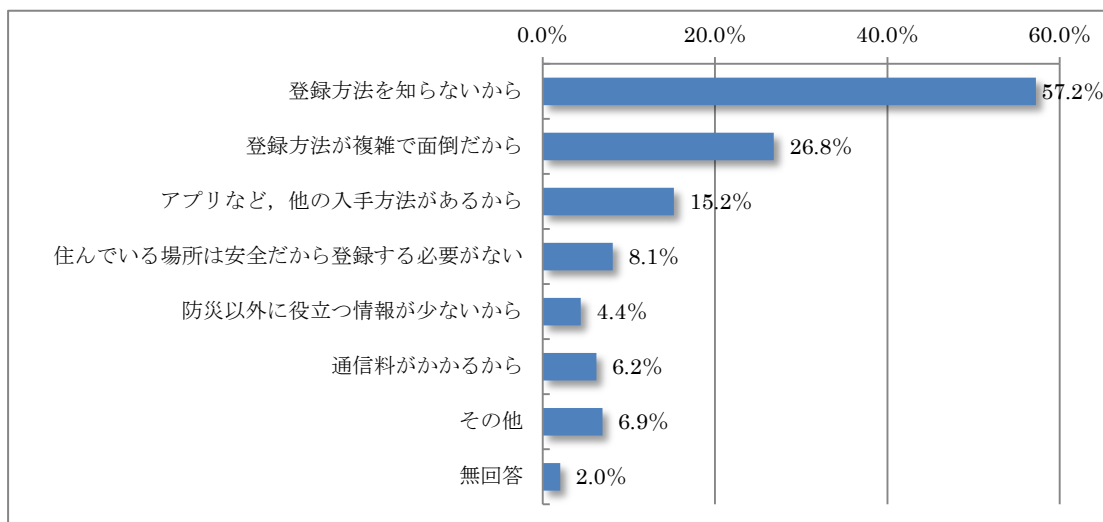
(単位：%)

		全体	知っており、登録もしている	知っているが、登録していない	知らない	知らないが今後登録したい	無回答
全 体		100.0	28.2	36.4	25.3	8.9	1.2
年 代 別	20歳未満	100.0	6.9	21.7	59.3	12.1	0.0
	20代	100.0	23.9	24.1	38.3	12.7	1.0
	30代	100.0	32.0	29.5	29.4	9.1	0.0
	40代	100.0	34.1	31.4	24.6	9.8	0.1
	50代	100.0	32.4	38.4	20.7	8.2	0.3
	60代	100.0	32.2	39.5	18.6	8.6	1.1
	70代	100.0	23.7	43.3	23.7	7.7	1.6
	80歳以上	100.0	12.4	38.5	36.3	7.4	5.4
性 別	男性	100.0	26.8	37.4	26.7	8.4	0.7
	女性	100.0	29.5	35.7	24.0	9.3	1.5
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	31.8	33.9	23.5	10.4	0.4
	自営業	100.0	32.5	39.1	22.7	5.7	0.0
	農林漁業	100.0	21.8	42.7	21.9	10.2	3.4
	家事や育児で在宅	100.0	34.6	31.4	29.3	3.9	0.8
	学生	100.0	7.2	27.1	46.9	18.8	0.0
	定年退職などで在宅	100.0	23.4	39.7	25.5	8.5	2.9
	その他	100.0	22.1	43.7	26.3	5.8	2.1

- アンケートでは、携帯電話・スマートフォン、タブレット端末を持っている人(約8割)のうち、防災情報メールを「知っている」割合は約6割「64.6% (61.9%)」で、そのうち、約4割「28.2% (31.3%)」が登録している。(全体の約2割)
- また、防災情報メールを「知らない」割合は約3割「34.2% (37.2%)」で、そのうち、約3割「8.9% (11.2%)」が登録したいと考えている。(全体の約1割)
- 上記を除く約7割の者の、登録していない理由は、「登録方法を知らないから」が約6割「57.2% (50.8%)」と、最も多い。



・ 県、市町の防災情報メールの認知度 (問 12)



・ 県，市町の防災情報メールを登録しない理由（問 13）

ア 有識者による分析や示唆など

- 高齢者の，携帯電話・スマートフォン等の保有率から考えてみても，防災情報メールの登録割合は，低いと言わざるを得ない。（70 歳代以上の保有率 67.1%）
- 市町の防災情報メールの登録者数の向上に寄与するのは，市町の力によるところが大である。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 防災情報メールについて，一人で登録することが困難な高齢者等に対しては，市町等の実施する防災イベント・防災講習や，地域行事などの場において，防災担当職員による登録支援などについて働きかけを行う。
- 地域の高齢者サロン等で行う防災教室において，参加者への防災情報メールの登録を働きかける。
- 県の防災情報メールを登録している方を対象にした，例えば，カープ観戦チケットのプレゼントキャンペーンなど，県民への防災情報メールの認知と，登録者数の増につながる取組の継続を検討する。

（3）【行動目標】 自ら判断して適切に「行動する」及び 防災教室や防災訓練などで「学ぶ」

行動計画に掲げる 成果指標項目	調査結果					H29(目標)	H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	H30(2月)		
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	36.8%	39.4%	52.9%	60.0%

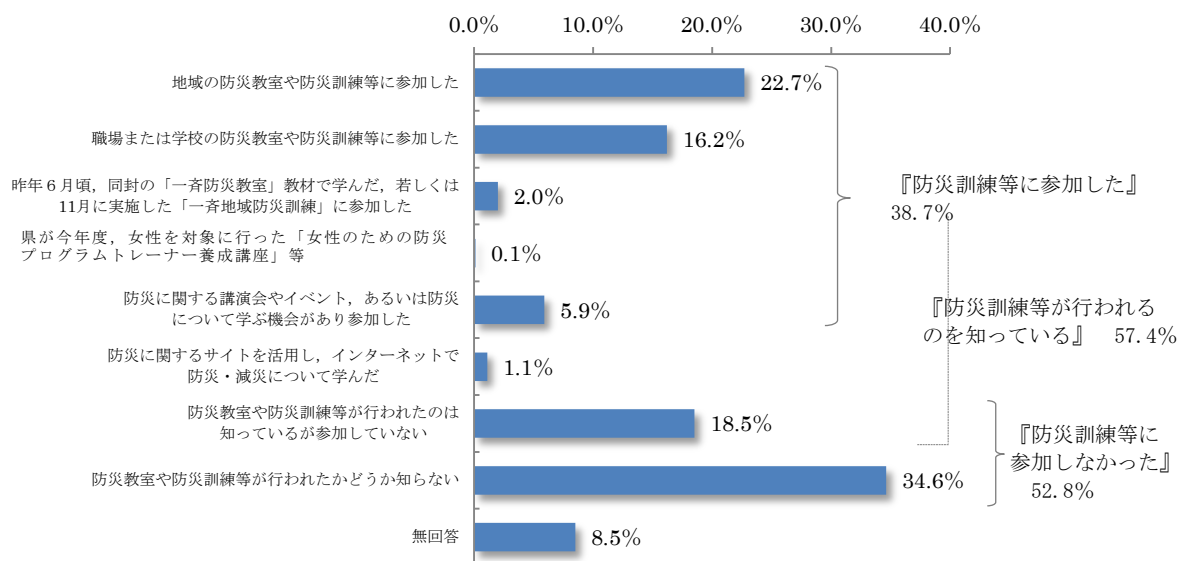
《防災教室・防災訓練へ参加した人の割合の内訳》

(単位：%)

		全体	参加した	参加していない	無回答
全体		100.0	39.4	52.8	8.5
年代別	20歳未満	100.0	74.4	23.2	2.4
	20代	100.0	25.6	70.4	3.9
	30代	100.0	35.9	61.5	3.0
	40代	100.0	43.9	54.6	2.0
	50代	100.0	45.2	50.7	4.8
	60代	100.0	41.3	54.0	5.3
	70代	100.0	41.9	49.5	9.5
	80歳以上	100.0	26.8	47.0	27.8
性別	男性	100.0	42.2	52.0	6.7
	女性	100.0	36.9	53.5	10.1
生活形態別	企業・団体勤務	100.0	46.4	51.3	2.9
	自営業	100.0	34.3	56.0	10.6
	農林漁業	100.0	42.2	44.5	13.5
	家事や育児で在宅	100.0	33.1	61.9	6.8
	学生	100.0	50.9	47.8	1.3
	定年退職などで在宅	100.0	35.0	53.8	12.0
	その他	100.0	26.8	54.1	19.6

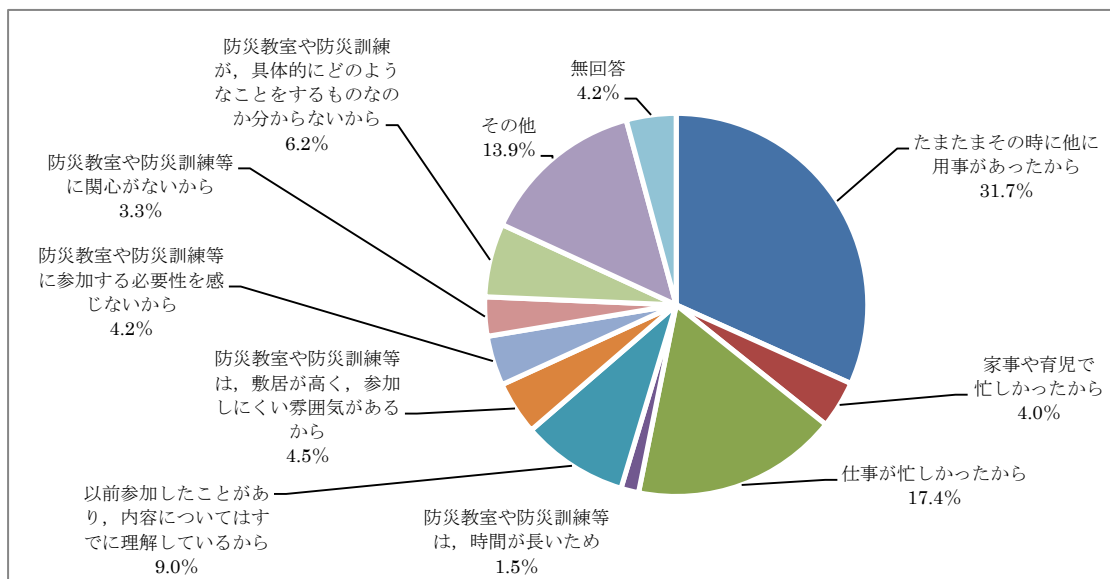
○ 防災教室・防災訓練への参加割合が最も低いのは、前回と同様に「家事や育児で在宅」で「33.1% (22.2%)」であったが、全体平均値との差は、少なくなっている。

○ なお、「家事や育児で在宅」の、「防災教室等が行われたかどうか知らない」と答えた割合は、前回と同様に高く「40.0% (48.1%)」であった。



過去1年間における防災教室・防災訓練への参加の有無 (問17)

- 防災教室・訓練があることを知りながら、「たまたまその時に他に用事があったから」や、「仕事が忙しかったから」など、時間的な制約を理由として参加しなかったのは、「企業・団体勤務（73.9%）」が最も高く、次いで「自営業（71.6%）」となっている。
- また、「防災教室等の敷居が高く参加しにくい雰囲気があるから」を理由としているのは、「農林漁業（12.9%）」が最も多く、次いで「家事や育児で在宅（9.5%）」となっている。
- なお、「防災教室等が行われたかどうか知らない」と答えた人のうち、「知っていれば参加した」が「21.6%」,「参加しなかった」が「39.4%」,「誘われれば参加した」が、「36.8%」となっている。



防災教室等が行われたのは知っているが参加しなかった理由（問 18）

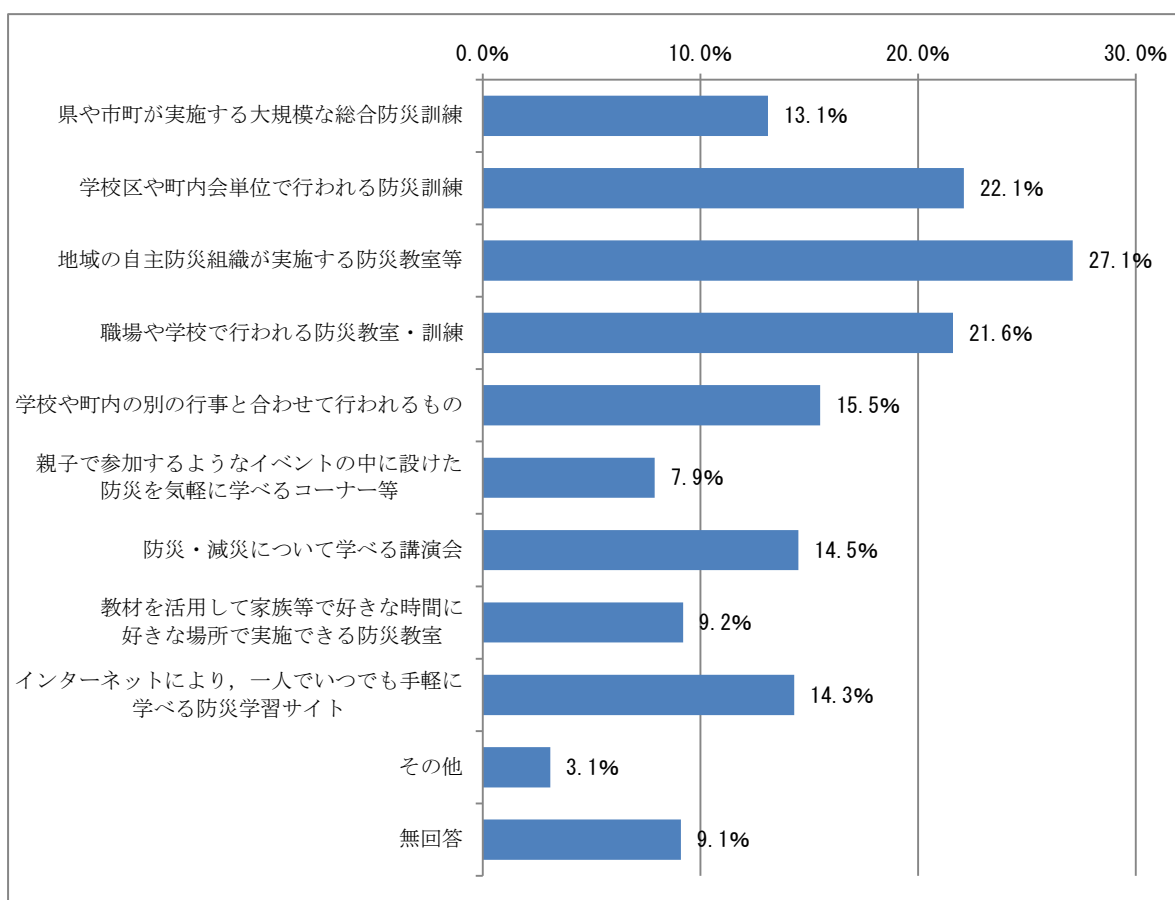
- 参加しやすい防災教室等の形態として、最も割合が高いのが、「地域の自主防災組織が実施する防災教室等」の「27.1%」,次いで「学校区や町内会単位で行われる防災訓練」の「22.1%」となっている。

年代別では、70代、60代は「地域の自主防災組織が実施する防災教室等」が最も割合が高く、それぞれ「43.3%」,「38.0%」で、50代以下にあっては、「職場や学校で行われる防災教室・訓練」が最も高く、それぞれ、50代「37.9%」,40代「41.0%」,30代「40.9%」,20代「55.4%」となっている。

また、生活形態別では、企業・団体勤務者は、「職場や学校で行われる防災教室・訓練」が「43.6%」と最も高く、次いで「インターネット学習サイト」が「21.0%」となっている。

「家事や育児で在宅」にあっては、「地域の自主防災組織が実施する防災教室等」のほか、「親子で参加できるイベント内に設けた防災教室」も「21.0%」と高い割合となっている。

- なお、防災教室等に参加しやすい日時や時間帯については、すべての形態において、「休日の日中で1時間以内」が多い傾向にあった。



参加しやすい防災教室等の形態（問 20）

ア 有識者による分析や示唆など

- 防災教室・防災訓練に「誘われれば参加した」や「知っていれば参加した」という人が数多くいることから、これまで以上に、開催情報の周知を行うとともに、防災行動の実行度の高い層には、身近な他者に対する、防災教室等への参加の呼び掛けに携わってくれるよう働きかけることが必要である。
- 地域の自主防災組織が行う、若しくは、学校区や町内会単位で行われる防災教室・訓練が、より多くの住民の参加を得て行われる活発なものとなるよう、働きかけていく必要がある。
- 県内の地域によっては、発生の危険性のある災害と、それに対応する防災教室・訓練とが必ずしも合致していないことなどにより、住民の参加を妨げているような実態がないか確認した上で実効性ある訓練等を企画していく必要もあるのではないか。
- 企業・団体、学校にあっては、それぞれの場において、実践的な防災教室・訓練を実施し、参加を促すことが必要である。

- 独りで学べる，インターネット学習サイトを望む意見も多いことから，インターネット上で，防災訓練に参加したことと同等の知識を学べるコンテンツの作成が必要である。
- 主婦・主夫層などにおいてニーズの高い，子どもや家族と一緒に，あまり時間を費やすことなく「何かのついでに参加できる」ような教室・訓練の企画が必要である。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 地域で行われる防災教室等への県民の一層の参加を促進するとともに，子育てサークルや高齢者サロン等における防災教室の，担い手育成などの取組を通じ，県内の地域コミュニティにおける，防災教室等への参加の呼び掛けを促す。
- 自主防災組織の活動の活性化を図るとともに，自主防災組織と学校その他の団体等とが連携した防災教室等の開催を促し，教材提供等，必要な支援を行う。
- 住民に地域の災害危険箇所を知っていただいた上で，いざという時の早めの避難を促すため，市町や自主防災アドバイザーと連携し，「まち歩き」やD I G及びマップ作成など実体験を取り入れた防災教室・訓練を実施する。
- 引き続き，県内企業を訪問して経営者層に対し，従業員対象の防災教室・訓練の実施を働きかけるとともに，参加機会を確保するため，全县民を対象にした「一斉防災教室」，「一斉地震防災訓練」の一層の活用を促す。
- 県のポータルサイトに掲載した，いつでも自分で好きな時に学べる教材について，一層の活用が促進されるよう，更なる改良を加え，内容の充実を図る。
- 県内地域で行われているイベント・行事等の中で，防災について，親子で学べる場や機会の創出を行う。

(4) 【行動目標】 非常持出品を準備するなど災害に「備える」

行動計画に掲げる 成果指標項目	調査結果					H29(目標)	H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	H30(2月)		
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	67.6%	67.4%	—	—
上記を用意し，かつ3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	—	—	—	46.7%	50.5%	52.6%	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	—	—	—	43.9%	56.6%	47.5%	70.0%

《非常持出品を用意している人の割合の内訳》

(単位：%)

		全体	用意している	用意していない	無回答
全 体		100.0	67.4	18.7	13.9
年 代 別	20歳未満	100.0	51.4	34.7	13.9
	20代	100.0	50.2	38.6	11.2
	30代	100.0	63.7	27.9	8.4
	40代	100.0	69.5	26.7	3.8
	50代	100.0	66.6	24.2	9.2
	60代	100.0	73.0	12.8	14.2
	70代	100.0	73.0	10.5	16.5
	80歳以上	100.0	59.5	12.8	27.7
性 別	男性	100.0	67.4	19.4	13.2
	女性	100.0	67.3	18.1	14.6
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	66.9	23.2	9.9
	自営業	100.0	67.4	18.9	13.7
	農林漁業	100.0	69.0	12.7	18.3
	家事や育児で在宅	100.0	72.2	17.7	10.1
	学生	100.0	48.4	41.6	10.0
	定年退職などで在宅	100.0	68.4	13.4	18.2
	その他	100.0	65.9	13.5	20.6

《非常持出品を用意し、3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合の内訳》

(単位：%)

		全体	用意している	用意していない	無回答
全 体		100.0	50.5	32.4	17.1
年 代 別	20歳未満	100.0	34.3	52.0	13.7
	20代	100.0	32.6	56.2	11.2
	30代	100.0	47.6	43.4	9.0
	40代	100.0	53.9	41.6	4.5
	50代	100.0	50.0	40.4	9.6
	60代	100.0	57.3	25.1	17.6
	70代	100.0	54.4	24.3	21.3
	80歳以上	100.0	41.4	21.9	36.7
性 別	男性	100.0	50.1	33.7	16.2
	女性	100.0	50.8	31.2	18.0
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	51.7	37.5	10.8
	自営業	100.0	52.1	32.0	15.9
	農林漁業	100.0	46.6	26.9	26.5
	家事や育児で在宅	100.0	54.6	33.1	12.3
	学生	100.0	29.9	60.3	9.8
	定年退職などで在宅	100.0	50.2	26.5	23.3
	その他	100.0	50.0	22.8	27.2

《家具等の転倒防止の対策を行っている人の割合の内訳》

(単位：%)

		全体	対策している	対策していない	無回答
全 体		100.0	56.6	29.3	14.1
年 代 別	20歳未満	100.0	47.7	40.8	11.5
	20代	100.0	54.1	36.5	9.4
	30代	100.0	61.9	29.7	8.4
	40代	100.0	67.2	28.7	4.1
	50代	100.0	53.6	37.0	9.4
	60代	100.0	56.6	30.5	12.9
	70代	100.0	59.0	23.8	17.2
	80歳以上	100.0	44.6	24.5	30.9
性 別	男性	100.0	56.8	29.6	13.6
	女性	100.0	56.4	29.1	14.6
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	57.3	33.1	9.6
	自営業	100.0	61.5	25.0	13.5
	農林漁業	100.0	56.1	24.7	19.2
	家事や育児で在宅	100.0	60.1	31.5	8.4
	学生	100.0	47.1	42.2	10.7
	定年退職などで在宅	100.0	56.0	25.1	18.8
	その他	100.0	51.4	25.8	22.8

- 非常持出品を用意している人の割合について、学生や単身者の多い「20歳未満 (51.4%)」、「20代 (50.2%)」を除くと、どの生活形態においても、ほぼ平均値及び平均値以上となっており、男女の差異もほとんどない。
- 非常持出品を用意し、かつ3日以上以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合も、学生や単身者の多い「20歳未満 (34.3%)」、「20代 (32.6%)」を除くと、どの生活形態においても、ほぼ平均値及び平均値以上となっており、男女の差異もほとんどない。
- 家具等の転倒防止を行っている人の割合は、さらに伸び、「20歳未満 (47.7%)」、「80歳以上 (44.6%)」を除くと、どの層においても、ほぼ平均値及び平均値以上となっており、男女の差異もほとんどない。

ア 有識者による分析や示唆など

- 高層のマンションに住んでいる方達など、避難所に避難するよりも留まった方が良い人ほど、食糧や飲料水を備蓄しておく必要があるが、実態はどうであるか、調べてみる必要がある。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 平成31年2月に実施予定の、防災・減災に関する県民意識調査において、これまでの取組の効果に合わせ、地域の詳細な実態の把握に努める。

調 査 票

I あなたのことについてお尋ねします

問1 お住まいの市区町名をお答えください。(○は1つ)

1 広島市中区	9 呉市	17 大竹市	25 坂町
2 広島市東区	10 竹原市	18 東広島市	26 安芸太田町
3 広島市南区	11 三原市	19 廿日市市	27 北広島町
4 広島市西区	12 尾道市	20 安芸高田市	28 大崎上島町
5 広島市安佐南区	13 福山市	21 江田島市	29 世羅町
6 広島市安佐北区	14 府中市	22 府中町	30 神石高原町
7 広島市安芸区	15 三次市	23 海田町	
8 広島市佐伯区	16 庄原市	24 熊野町	

問2 お住まいのある場所は次のどれに当たりますか。

(1) お住まいは次のどの地域にありますか。(○は1つ)

- 1 沿岸部
- 2 島嶼部
- 3 内陸部・山間部
- 4 その他 ()

(2) お住まいの場所や周囲の状況について、お答えください。(○はいくつでも)

- 1 なだらかな山の裾野にある
- 2 近くに急峻な山がある
- 3 山に挟まれた谷間にある
- 4 川の側にある
- 5 市街地にある
- 6 海沿いにある
- 7 周囲の地形は平坦である

問3 あなたの年齢はおいくつですか。(平成29年4月1日時点)

() 歳

問4 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- 1 男性
- 2 女性

問5 主としてどのような生活形態ですか。（○は1つ）

- 1 企業・団体等で勤務している（正規の従業員，パート，派遣社員など）
- 2 自営業を営んでいる，または手伝っている。
- 3 農・林・漁業を営んでいる
- 4 家事や育児，または介護などで在宅している
- 5 学生
- 6 定年退職などで在宅している
- 7 その他（ ）

問6 あなたは，次のどのような活動に参加することがありますか。あてはまるものに○を付けてください。（○はいくつでも）

- 1 公民館やコミュニティセンターである子育てサークルや幼児サークルの集まり
- 2 公民館やコミュニティセンターである趣味のサークルやグループの集まり
- 3 公民館以外のサークルやグループの集まり
- 4 地域のボランティア団体の活動
- 5 女性会・婦人会の集まり
- 6 敬老会・シニアクラブの集まり
- 7 その他（具体的に ）
- 8 上記のどれにも参加していない

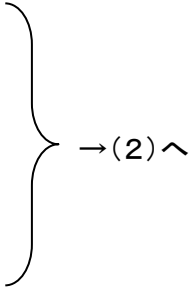
問7 あなたのお住まいは次のどれに当たりますか。住宅の種類番号と，耐震性の有無等についても，○をつけてください。

なお，3，4の場合は（ ）欄に階数を数字で記入してください。

住宅の種類	耐震性の有無等		
	有	無	分からない
1 一戸建て住宅（木造住宅）	有	無	分からない
2 一戸建て住宅（鉄骨造住宅）	有	無	分からない
3 2階建て以下の集合住宅の（ ）階	有	無	分からない
4 3階建て以上の集合住宅の（ ）階	有	無	分からない

問 8 現在、あなたと同居している方についてお尋ねします。

(1) 同居している方はどなたですか。(○はいくつでも)

- 1 配偶者
 - 2 親
 - 3 乳幼児（未就学児）
 - 4 小学生の子供
 - 5 中学生以上の子供
 - 6 親戚や知り合いなど
 - 7 同居している人はいない（一人暮らし） →問9へ
 - 8 その他（ ）
- 

(2) 1～6に○をつけた方にお尋ねします。同居している方のうち、災害時に自力で避難することが困難な方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

- 1 いる
- 2 いない

問 9 地域での防災活動への関わりについて教えてください。(○はいくつでも)

- 1 自主防災組織で活動している（「2」以外）
- 2 自主防災組織で役員等をしている
- 3 消防団，または水防団に所属している
- 4 町内の避難訓練等があれば，参加する程度である
- 5 全く関わりはない
- 6 その他（ ）

問 10 あなたは、町内会・自治会に入っていますか。

また、町内の人々とどれくらい親しく付き合っていますか。(○は1つ)

- 1 町内会・自治会に入っていて、町内に親しく付き合っている人がいる。
- 2 町内会・自治会に入っていて、会えば挨拶をする程度の人がある。
- 3 町内会・自治会に入っているが、町内の人と付き合いがない。
- 4 町内会・自治会に入っていない。

問 11 現在の住所に住み始めてから、今年で何年になりますか。正確な年数がわからない場合は、おおよそでも構いません。

() 年

問 12 あなたは、住んでいる地域に愛着がありますか。(○は1つ)

- 1 まったく愛着がない
- 2 どちらかといえば愛着がない
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば愛着がある
- 5 とても愛着がある

問 13 ここ最近のあなたの関心事項は何ですか。下記に挙げるもののうち、最も関心のあるものから3つを選び、回答欄にその番号を記入してください。

- 1 家計の状態や経済的な暮らし向き
- 2 仕事のこと
- 3 家族や家庭のこと
- 4 家族以外との、対人関係のこと
- 5 趣味の活動や習い事など、余暇活動のこと
- 6 自分の健康や病気、精神的な不安のこと
- 7 自分の、将来の進路や生活のこと
- 8 地域の抱える課題に関すること
- 9 社会で起きている様々な問題
- 10 自然災害
- 11 その他(具体的に)

<回答欄>

1位	2位	3位

Ⅱ 次に、あなたの災害に対する意識とご経験についてお尋ねします

問1 あなたは、自然災害や防災・減災といった事柄にどれくらい関心がありますか。
(○は1つ)

- 1 まったく関心がない
- 2 少しは関心がある
- 3 かなり関心がある
- 4 とても関心がある

問2 あなたはふだん、次の災害が来ることについてどれくらい心配していますか。
各項目について該当する番号1つを○で囲んでください。

	心 配 で は な い	ま っ た く 心 配 で あ る	心 配 で あ る	心 配 で あ る	心 配 で あ る
震度6～7の地震（阪神・淡路大震災の大きさ。立っていることができず、飛ばされることもあり、地割れや家屋の倒壊が起きる）	1	2	3	4	4
震度4～5の地震（ものにつかまらなると歩けず、家具が倒れることがある）	1	2	3	4	4
土砂災害（土石流、がけ崩れ、または地滑り）	1	2	3	4	4
暴風や竜巻による風害 （人や物が飛ばされる、塩害など）	1	2	3	4	4
台風や豪雨による水害（高潮、河川の氾濫、家屋の浸水、耕地の冠水、堤防の決壊など）	1	2	3	4	4
津波による被害	1	2	3	4	4
豪雪・雪崩による雪害	1	2	3	4	4

問3 あなたやあなたのご家族は、これまで、災害によって何らかの被害（怪我、物損、2日以上避難生活など）を受けたことがありますか。(○は1つ)

- 1 まったくない
- 2それほど大きくはないが、被害を受けたことがある
- 3 比較的大きな被害を受けたことがある
- 4 非常に大きな被害を受けたことがある

問4 次に、災害や防災・減災に関する様々な考え方を示しています。これらの考え方は、あなた自身のお考えにどの程度あてはまりますか。各項目について該当する番号1つを○で囲んでください。

	あてはまらない まったく	あてはまる 少し	あてはまる かなり	あてはまる 非常に
1人1人が災害への備えをしっかりとしておくことは重要だ	1	2	3	4
災害への備えをするかどうかは個人の自由だ	1	2	3	4
災害への備えは、「自分の命を自分で守る」ために行うものだ	1	2	3	4
災害への備えを行うことは、社会の一員としての義務だ	1	2	3	4
災害への備えをしておかなければ、地域の人々に迷惑をかけることになる	1	2	3	4
自分の居住地で災害が起きたら、その時はその時のことだ	1	2	3	4
災害への備えは、自分にとって大切な人々を悲しませないようにするために行うものだ	1	2	3	4
いざという時、家族や親しい人々を助けることができるようにするためにも、備えが必要だ	1	2	3	4
災害に備えることに時間や手間を費やすのは無駄な気がする	1	2	3	4
気象警報が発表されても、結果的には大きな災害が来ないことが多い	1	2	3	4
結果的に大きな災害にならなくても、避難勧告や避難指示には従った方がよい	1	2	3	4
広島県は、他の県に比べると災害が少ないと思う	1	2	3	4

問5 あなたがお住まいの町内では、町ぐるみの防災活動がどれくらい盛んですか。
(○は1つ)

- 1 まったく盛んではない
- 2 盛んとは言えないが、たまに防災活動をやっている
- 3 どちらかといえば盛んな方だ
- 4 かなり盛んな方だ
- 5 盛んと言えるかどうか分からない
- 6 活動しているかどうか分からない

問6 ご自宅が安全かどうかにかかわらず、あなたの住んでいる場所では、どのような災害の危険性が想定されているかご存知ですか。
(7または8以外は、○はいくつでも)

* 県の防災 Web や、市町のハザードマップなどで災害危険箇所を公開しています。

- | | | |
|---------------------|---|-------|
| 1 地震の危険性 | } | → 問7へ |
| 2 津波で浸水する危険性 | | |
| 3 川の氾濫による浸水の危険性 | | |
| 4 内水氾濫(※1)による浸水の危険性 | | |
| 5 高潮による浸水の危険性 | | |
| 6 土砂災害(※2)の危険性 | | |
| 7 災害の危険性はない | | → 問8へ |
| 8 どんな危険性があるか知らない | | → 問9へ |

※1 川の水位の上昇や流域内の多量の降雨などにより、河川外における住宅地などの排水が困難となり浸水すること

※2 土石流、がけ崩れ、または地滑り

問7 問6で「1～6」と回答した人にお尋ねします。

(1) 災害の危険性は、どのようなきっかけで知りましたか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|--------------------------------|-------|---|--------|
| 1 自分で調べた | →(2)へ | } | → (3)へ |
| 2 家族に聞いた(話し合った) | | | |
| 3 地域の方(個人、自主防災組織、消防団)から教えてもらった | | | |
| 4 地域の住民ではない友人や知人から教えてもらった | | | |
| 5 市役所(町役場)の人から聞いた | | | |
| 6 職場で教えてもらった | | | |
| 7 学校で教えてもらった | | | |
| 8 自ら災害を体験した | | | |
| 9 家族(親戚)・知人が災害を体験した | | | |
| 10 その他 () | | | |

(2) 問7の(1)で「1 自分で調べた」と回答した人にお尋ねします。

災害の危険性を知ろうと思った大きなきっかけは何ですか。数字を選んで回答欄にお書きください。(3つまで)

- 1 平成26年8月に、広島市で大規模災害があったから
- 2 近年、各地で災害が起きているから
- 3 防災教室、出前講座、防災訓練、防災イベントで教わったから
- 4 子どもが学校で確認するよう教わったから
- 5 テレビ、新聞、ラジオなどで見聞きしたから
- 6 インターネット上の記事や情報を見たから
- 7 県・市町のホームページ、広報誌、広報番組で見聞きしたから
- 8 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を知ったから
- 9 自主防災組織や消防団の人から勧められたから
- 10 市役所(町役場)の人から勧められたから
- 11 自分が災害を経験したから
- 12 家族(親戚)・知人が災害を体験したから
- 13 職場で勧められたから
- 14 近所の人を知っていたから
- 15 地域の住民ではない友人や知人から勧められたから
- 16 その他 ()

回答欄		

(3) 問7の(1)で「2~10」と回答した人にお尋ねします。

災害の危険性を確認した方法をお答えください。(〇はいくつでも)

- 1 県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ※
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ※
- 3 県の防災Webや市町のホームページなどで公開している震度分布図、揺れやすさマップ、土砂災害危険箇所図、土砂災害警戒区域図・特別警戒区域図、洪水・高潮・津波浸水想定区域図等
- 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 5 実際に地域を歩いてみた
- 6 その他 ()

※ 自然災害(地震・津波・洪水・土砂災害等)による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

問 8 問 6 で「7 災害の危険性はない」と回答した人にお尋ねします。
 災害の危険性はないとされた理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 ハザードマップで確認したから
- 2 実際に地域を歩いてみたから
- 3 家屋を耐震化したから
- 4 家具等の転倒防止対策をしているから
- 5 これまで、近親者や親しい人が災害に遭ったことがないから
- 6 住んでいる地域で災害が起こっていないから
- 7 特に根拠はない
- 8 その他 ()

問 9 問 6 で「8 どんな危険性があるか知らない」と回答した人にお尋ねします。
 危険性を知らない理由をお答えください。(〇はいくつでも)

- 1 知りたいが、誰(どこ)に聞いたらよいか分からない
- 2 知りたいが、忙しくて確認する時間がない
- 3 知りたいが、調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 危険性を確認するの必要性を感じない
- 5 災害が起きたらその時はその時だと思っている
- 6 その他 ()

問 10 台風が接近している時などにおいて、あなたは災害発生の危険性や避難に関する情報などを、次のどこから入手しようと思いますか。次の 1～14 の中から、当てはまる数字をお選びください。(3 つまで)

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1 テレビ(天気予報を含む) | 8 ツイッターやフェイスブックなど SNS |
| 2 テレビのデータ放送※ | 9 市町の広報車 |
| 3 ラジオ | 10 町内会や自主防災組織から |
| 4 インターネット
(県防災 Web, 気象庁ホームページ等) | 11 消防署や消防団から |
| 5 県や市町の防災情報メール | 12 家族, 友人, 近所の方から |
| 6 スマートフォン等に登録したアプリ | 13 入手しない |
| 7 防災行政無線 | 14 その他 () |

※ テレビのリモコンの d ボタンを押すと、雨量・水位などの観測データや気象予警報、土砂災害警戒情報などの情報を見たいときにいつでも見ることができるサービス

回答欄		

問 11 あなたは、携帯電話・スマートフォンもしくはタブレット端末を持っていますか。

- 1 持っている → 問 12 へ
- 2 持っていない → 問 16 へ

問 12 問 11 で「1 持っている」と回答した人にお尋ねします。

県及び市町では、県民の皆さんに災害から命を守っていただくため、防災情報メール※通知サービスを行っています。このことを、ご存じですか。(○は1つ)

※ 大雨や洪水に関する注意報や警報，土砂災害警戒情報及び地域の雨量などの情報を防災情報メールで登録者の携帯電話，スマートフォンなどにお知らせしています。防災情報メールの登録方法については，県防災 Web に掲載しています。

- 1 知っており，登録もしている → 問 13 へ
 - 2 知っているが，登録していない → 問 14 へ
 - 3 知らない
 - 4 知らなかったが，今後登録したい
- } → 問 15 へ

問 13 問 12 で「1 知っており，登録している」と回答した人にお尋ねします。防災情報メールを登録した理由，きっかけは何ですか。(○は1つ)

- 1 県や市町などのホームページで防災情報メールを知り，役立つと思ったから
- 2 テレビ・ラジオなどで，県，市町の防災情報メールを知り，役立つと思ったから
- 3 県や市町のイベントや防災に関する行事などで知り，役立つと思ったから
- 4 職場や学校で勧められたから
- 5 家族・知人から勧められたから
- 6 市町の防災担当職員などに登録を勧められたから
- 7 その他 ()

問 14 問 12 で「2 知っているが，登録していない」と回答した人にお尋ねします。その理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 どこから登録できるようになっているかを知らないから
- 2 登録方法が複雑で面倒だから
- 3 スマートフォンに登録するアプリなど，他の入手方法があるから
- 4 住んでいる場所は安全だから登録する必要性がない
- 5 防災以外に役立つ情報が少ないから
- 6 通信料がかかるから
- 7 その他 ()

問 15 あなたは、気象・防災や、避難に関する情報を入手するため、お持ちの携帯電話・スマートフォンに、県や市町の防災情報メールではない民間の防災アプリを登録していますか。

- 1 登録している → 問 16 へ
- 2 登録していない → 問 17 へ

問 16 問 15 で「1 登録している」と回答された人にお尋ねします。登録している防災アプリは何ですか。よろしければ、次の中からお選びください。
(○はいくつでも)

- 1 Yahoo!防災速報
- 2 goo 防災アプリ
- 3 全国避難所ガイド
- 4 その他 ()

問 17 あなたは、過去 1 年間に、ご自宅、地域、職場、あるいは学校で、防災教室や防災訓練等に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

- 1 地域の防災教室や防災訓練等（町内清掃などとあわせて実施されるものを含む）に参加した
- 2 職場、または学校の防災教室や防災訓練等（消火訓練や運動会などとあわせて実施されるものを含む）に参加した
- 3 昨年 6 月頃、同封の「一斉防災教室」教材で学んだ、若しくは、11 月に実施した「一斉地震防災訓練(※1)」に参加した
- 4 広島県が今年度、女性を対象に行った「女性のための防災プログラムトレーナー養成講座」(※2)、もしくは、その講座の参加者が実施した、カード(※3)を使った防災教室に参加した。
- 5 防災教室・防災訓練の名称ではなかったかもしれないが、防災に関する講演会やイベント、あるいは防災について学ぶ機会があり、参加した。
- 6 防災に関するサイトを活用し、インターネットで防災・減災について学んだ。
- 7 防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない →問18へ
- 8 防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない → 問19へ

問 20 へ

※1 一斉地震防災訓練 … 昨年 11 月に行った地震から命を守るための行動をとる訓練

※2 「女性のための防災プログラムトレーナー養成講座」

… 子育て世代等の主婦層において、防災教室等が盛んに行われることを目的とした、女性の防災教室等の担い手を育成するための講座
(昨年 10 月初旬及び 11 月末開催)

※3 カード … 災害時や避難所等で直面する状況と、取るべき行動が 3 択で書かれている「ひろしま防災」カード

問 18 問 17 で「7 防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない」と回答した人にお尋ねします。

防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは、なぜですか。(○は1つ)

- 1 たまたまその時に他に用事があったから
- 2 家事や育児で忙しかったから
- 3 仕事が忙しかったから
- 4 防災教室や防災訓練等は、時間が長いため
- 5 以前参加したことがあり、内容についてはすでに理解しているから
- 6 防災教室や防災訓練等は、敷居が高く、参加しにくい雰囲気があるから
- 7 防災教室や防災訓練等に参加する必要性を感じないから
- 8 防災教室や防災訓練等に関心がないから
- 9 防災教室や防災訓練が、具体的にどのようなことをするものなのか分からないから
- 10 その他()

* 社会福祉施設等へ入所しているため。体調不良のため 等

問 19 問 17 で「8 防災教室や防災訓練が行われたかどうか知らない」と回答した人にお尋ねします。開催されることを知っていれば、参加されましたか。(○は1つ)

- 1 知っていれば参加した
- 2 誘われれば参加した
- 3 参加しなかった

問 20 あなたにとって、次のうちどのような形態の防災教室等が参加しやすい（取り組みやすい）ですか。（○はいくつでも）

- 1 県や市町が、消防など関係機関と連携して実施する大規模な総合防災訓練で、避難訓練等の住民参加型メニューのあるもの（年1回程度開催）
- 2 学校区や町内会単位で行われる、炊き出しや避難所運営、避難訓練などの住民参加型の防災訓練
- 3 地域の自主防災組織が、公民館や集会所等で住民対象に実施する防災教室や図上訓練
- 4 職場や学校で行われる防災教室・訓練
- 5 学校や町内の別の行事（運動会、「とんど」、一斉清掃等）と合わせて行われるもの
- 6 親子で参加するようなイベントの中に、防災を気軽に学べるコーナーや時間帯を設ける形のもの
- 7 防災・減災について、必要な知識を学ぶことのできる講演会
- 8 手軽に学べる教材を活用することで、家族や仲間うちで好きな時間に好きな場所で実施できる防災教室
- 9 インターネットにより、一人でいつでも手軽に学べる防災学習サイト
- 10 その他（ ）

→ 問 21 へ

→ 問 22 へ

問 21 問 20 で、参加しやすい防災教室等の形態として、1～7を選んだ方にお尋ねします。それぞれ防災教室・防災訓練は、いつ、どれくらいの時間で行われる（行う）のが良いと思いますか。該当するところに○を付けてください。

防災教室・防災訓練の形態	実施日時等				実施時間		
	平日		休日		1時間以内	2～3時間	半日以上
	日中	夕方以降	日中	夕方以降			
県や市町が実施する大規模な総合防災訓練							
学校区や町内会単位で行われる防災訓練							
地域の自主防災組織が実施する防災教室等							
職場や学校で行われる防災教室・訓練							
学校や町内の別の行事と合わせて行われるもの							
親子で参加するようなイベントの中に設けた、防災を気軽に学べるコーナー等							
防災・減災について学べる講演会							

Ⅲ あなたの災害に対する備えや災害時の行動についてお尋ねします

問 22 あなたは、今現在、下記のような「災害への備え」をどれくらいしていますか。
各項目について、該当する番号 1 つを○で囲んでください。

	して いた ない	ま っ た く し て い な い	し て い る	少 し は い る	し て い る	か な り い る	し て い る	十 分 に い る
① 3日分以上の食糧や飲料水の備蓄 ※「まったくしていない」を選んだ方は問 23 へ		1※		2		3		4
② 食糧と飲料水以外の非常持出品（携帯ラジオ、 懐中電灯、医薬品など）の準備		1		2		3		4
③ 身の周りの避難場所及び避難経路の確認		1		2		3		4
④ 立ち寄り先（職場や学校など）で被災した場合 の避難場所や避難経路の確認		1		2		3		4
⑤ 住んでいる場所の、発生の危険性のある災害に 応じた避難場所や避難経路の確認		1		2		3		4
⑥ 家具などの転倒の防止 〔 金具や「突っ張り棒」、ベルト等による家具固定、 転倒防止板の挟み込みなどによる対策のほか、寝室 にはできるだけ家具を配置しないなど、地震によっ て家具等の下敷きにならないための備えも含む 〕 ※「まったくしていない」を選んだ方は問 24 へ		1※		2		3		4
⑦ 家族や友人との緊急の連絡方法の確認		1		2		3		4
⑧ 避難訓練などの防災訓練への参加		1		2		3		4
⑨ 近所や町内の人々との日頃のコミュニケーション		1		2		3		4
⑩ 災害時の自宅周辺の危険性や、防災・減災に関 わる情報収集		1		2		3		4

問 23 問 22-①の災害への備え「3日分以上の食料や飲料水の備蓄」について、「まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。備蓄をしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 何をどれくらい備えればよいか分からないから
- 2 災害が起こるかどうかわからないから
- 3 手間がかかるから
- 4 費用がかかるから
- 5 備えていても消費期限が来たら、無駄になるから
- 6 保管する十分なスペースがないから
- 7 3日間も食料が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 8 その時になれば、誰かが何とかしてくれるだろうと思っているから
- 9 その他 ()

問 24 問 22-⑥の災害への備え「家具などの転倒の防止」について、「まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。家具などの転倒防止を行っていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 どのようにすればよいか分からないから
- 2 大きな地震が起こるかどうかわからないから
- 3 手間がかかるから
- 4 費用がかかるから
- 5 実際に効果があるかどうか分からないから
- 6 倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障のないところに置いてあるから
- 7 大きな家具等は置いていないから
- 8 地震は起こらないと思っているから
- 9 住まいが賃貸住宅であるため、手を加えることができないから
- 10 その他 ()

問 25 あなたのお住まいは、耐震診断や耐震化を行っていますか(耐震化されていますか)。(〇は1つ)

- 1 建築時から耐震化している(されている) → 問 28 へ
- 2 耐震診断はしていないが、耐震化工事をした
- 3 耐震診断をしたところ、耐震改修が必要であったため耐震化工事をした } → 問 26 へ
- 4 耐震診断はしたが、耐震改修は行わなかった } → 問 27 へ
- 5 耐震診断も耐震改修も行っていない
- 6 分からない → 問 28 へ

問 26 問 25 で「2 耐震診断はしていないが耐震化工事をした」, 「3 耐震診断をしたところ耐震改修が必要であったため耐震化工事をした」と回答した方にお尋ねします。耐震化したのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 耐震診断や耐震化工事に, 自治体の金銭的な補助があることを知ったから
- 2 自治体からの補助の有無に関わらず, 必要であると考えたから
- 3 阪神・淡路大震災や熊本地震など過去の地震による被害を見たから(知ったから)
- 4 近所の方が, 耐震化工事を行ったから
- 5 子供に残してやりたいと思ったから
- 6 その他 ()

問 27 問 25 で「4 耐震診断はしたが, 耐震改修は行わなかった」, 「5 耐震診断も耐震改修も行っていない」と回答した方にお尋ねします。その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 手間がかかるから
- 2 費用がかかるから
- 3 大きな地震は起こらないと思っているから
- 4 耐震化していても, 実際に効果があるか分からないから
- 5 必要なことだとは思っているが, どうしたらよいか分からないから
- 6 自分の住まいが地震に対する耐震基準を満たしているかどうか分からないから
- 7 住まいが賃貸住宅であるから
- 8 その他 ()

問 28 避難場所は何で確認しましたか。(〇はいくつでも)

- 1 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ
- 2 県のホームページ(防災Web や「みんなで減災 はじめの一步」) や市町のホームページ
- 3 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 4 地域の方(個人, 自主防災組織, 消防団など)から避難場所を教えてもらった
- 5 市役所(町役場)の人から聞いた
- 6 その他 ()

問 29 「避難場所」とは, 災害の危険が差し迫った時など, 緊急に避難する必要のある場合の避難先であり, 「避難所」とは, 災害が起こって自宅に戻れない方などが, 一時的に生活する場所のことをいい, いずれも市町が指定を行うものです。

あなたは, この「避難場所」と「避難所」の違いを知っていましたか。(〇は一つ)

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

問 30 次の各項目について、該当する番号 1 つを○で囲んでください。

	まったく いない	少しは いる	かなり いる	ほぼ 全員
あなたの親しい人たちの中に、災害への備えをしている人はどれくらいいますか。	1	2	3	4
あなたがお住いの地域では災害への備えをしている人はどれくらいいますか。	1	2	3	4
広島県には災害への備えをしている人がどれくらいいると思いますか。	1	2	3	4

問 31 次の各項目について、該当する番号 1 つを○で囲んでください。

	そう 思わない	やや 思う	かなり 思う	まったく 思う
あなたと親しい人たちは、あなたに災害への備えをして欲しいと期待していると思いますか。	1	2	3	4
あなたがお住いの地域の人々は、皆（あなたを含む）が災害への備えをすることを望んでいると思いますか。	1	2	3	4
災害への備えをすることは、社会的に望ましい行為だと思いますか。	1	2	3	4

問 32 災害への備えについて、あなたはどのように思いますか。下に挙げる考えに同意するかどうかをお答えください。該当する番号1つを○で囲んでください。

	同意しない まったく	同意しない あまり	同意する かなり	同意する おおいに
避難場所や避難経路を確認しておけば、災害のとき困らなくてすむと思う	1	2	3	4
避難場所や避難経路を確認するのは、正直、面倒だ	1	2	3	4
県,市町の防災情報メールを登録しておけば、災害から命を守るための必要な情報を早めに察知できる	1	2	3	4
避難訓練に参加しても、本当の災害のときに役立つとは限らないと思う	1	2	3	4
避難訓練に参加するのはむずかしい	1	2	3	4
自分の地域では、防災活動に取り組むのは困難だ	1	2	3	4
非常持ち出し用の食料や物品などを準備しておくことは、災害のときに役に立つだろう	1	2	3	4
地域全体で災害に備えておけば、災害時の被害を減らすことができるだろう	1	2	3	4
非常持ち出し用の食料や物品を準備するのは手間や費用がかかって大変だ	1	2	3	4

問 33 あなたは、次の防災に関する情報の意味をご存知ですか。ご存知の情報の欄に
○

を付けてください。（○はいくつでも）

また、そのうち、日頃から気を付けているものに○を付けてください

情報の種類	知っている	日頃から気を付けているもの
①気象に関する注意報・警報・特別警報		
②土砂災害警戒情報		
③土砂災害危険度情報		
④記録的短時間大雨情報		
⑤雨量情報		
⑥指定河川洪水予報		
⑦水位情報		
⑧津波情報		
⑨津波注意報・津波警報		
⑩潮位情報		
⑪大雨警報（浸水害）の危険度分布		
⑫洪水警報の危険度分布		
⑬避難指示（緊急）		
⑭避難勧告		
⑮避難準備情報・高齢者等避難開始		

問 34 あなたはふだん、家族や地域の人々と、災害や防災に関する話をすることがありますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 まったくない | 3 ときどき災害に関する話をする |
| 2 たまに災害に関する話をする | 4 しょっちゅう災害に関する話をする |

問 35 県では、平成 27 年 4 月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。（○は1つ）

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 行動目標※を含めて、知っていた | → 問 36 へ |
| 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった | } → 問 37 へ た |
| 3 まったく知らなかった | |

※5つの行動目標

【災害から命を守るための行動】

1 「知る」

身の周りの災害危険箇所を知り，災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認する

2 「察知する」

危険を知らせる気象情報・避難情報の入手手段を確保し，災害から命を守るための情報を察知する。

3 「行動する」

災害から命を守るために自ら判断して適切に行動する。

【普段から災害に備えるための行動】

4 「学ぶ」

学校，職場，地域で行われる防災教室・防災訓練に参加し，災害から命を守るための適切な行動について学ぶ。

5 「備える」

非常持出品・備蓄品の準備や，建物の耐震化，家具の転倒防止対策を行い，災害に備える。

問 36 問 35 で「1 行動目標を含めて，知っていた」と回答した人にお尋ねします。
この運動を何で知りましたか。(〇はいくつでも)

- 1 地域の方（個人，自主防災組織，消防団など）から教えてもらった
- 2 市役所（町役場）の人から聞いた
- 3 職場で聞いた
- 4 学校からの配布資料（チラシ等）
- 5 コンビニ等県政情報ラック（チラシ等）
- 6 県のホームページ
- 7 出前講座，防災教室，防災訓練など
- 8 県広報誌
- 9 県広報番組（テレビ）
- 10 県公式SNS（フェイスブック・ツイッター）
- 11 街中などにある電子掲示板（デジタルサイネージ）
- 12 テレビ・ラジオ等の情報番組
- 13 テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞
- 14 その他（)

問 37 県では、災害から命を守るために、県民のみなさんにとっていただきたい行動などを分かり易く掲載した、ホームページ「みんなで減災 はじめの一歩」(※同封のチラシ参照) を開設しています。このホームページについてご存知ですか。(○は1つ)

- 1 知っており、利用したことがある
- 2 聞いたことはあるが、利用したことはない
- 3 聞いたことがない

問 38 県では、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の推進役として、テレビ・ラジオ各局の気象予報士・キャスターの方に「みんなで減災 推進大使」(※同封の「～『みんなで減災』推進大使のみなさん～」参照) として、活動していただいていることをご存知ですか。(○は1つ)

- 1 知っている → 問 39 へ
 - 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
 - 3 聞いたことがない
- } → 問 40 へ

問 39 問 38 で「知っている」と回答した人にお尋ねします。「みんなで減災 推進大使」を何で知りましたか。(○は1つ)

- 1 テレビ・ラジオ等の、推進大使本人が出演している番組
- 2 防災フェア等のイベントでの講演
- 3 県のホームページ
- 4 新聞等
- 5 その他 ()

問 40 防災・減災について自由なご意見をお願いします。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。